

# 第4回 大橋川景観アドバイザー会議 議事要旨

## 【日時及び場所】

日 時：平成26年2月14日（金）

場 所：市町村振興センター6階 中会議室

## 【出席者】

大橋川景観アドバイザー委員

足立委員、飯野委員、井ノ上委員、片寄委員、松本委員、吉田委員、館委員

事務局

出雲河川事務所

## 【議事次第】

開 会

挨 拶（出雲河川事務所長）

座長挨拶

議 事

閉 会

## 【配付資料】

議事次第

席次表

資料-1 向島川樋門整備説明資料

資料-2 大橋川向島地区護岸整備説明資料

資料-3 水辺、水面利活用の取り組み状況

## 【議事概要】

### <松江市の水辺・水面利活用に関する取組状況報告>

- ・利活用をどうするかは、護岸をはじめ大橋川の景観を考えるのに非常に重要になってくる。アイデア一つ一つを社会実験での意見を通じてどの程度効果があるのか、あるいは、眠っているニーズや気付かなかった潜在的なニーズが、こういった作業の中で分かってくる。今後は、こういった松江市の取り組みともリンクできればと思う。
  - ・「水辺を楽しむワークショップ」により市民のみなさんの思いが、より具体的な形に表れてくるため、こういったワークショップを継続して欲しい。
- 松江市から
- ・引き続きいろんなことを考えていきたいと考えている。当面、2月23日にカヌーによる大橋川の本風景の探索を行う予定である。

### <向島地区築堤護岸計画の修正点について>

- ・法留め（法面勾配3割）と階段部分（階段勾配2.5割）の端部処理の工夫を行う。例えば、一番低くなる端部に地被植物を植えて目立たなくするなど。
- ・階段等に使用する来待石は苔が生えるため、滑らない加工とする。（びしょん仕上げなどにより滑らないよう対応する）
- ・小段や天端通路の使い方のルールの部分については、施工後に検証を行いながら対応する。
- ・上記の部分的な課題は残るが、事務局案で進める。

### <向島川樋門について>

- 各委員からの意見
- ・宍道湖の白瀉公園に既設の樋門が1基ある。デザインはかなり配慮されているが、現地の景観の中に入ると邪魔な構造物となっている。江戸時代の松江城下の樋門について調べたが、橋の下に設置されていて、鋼板を抜くと観音開きで開くようなタイプのものがあった。こうしたことから、提示された比較案の中では、マイターゲートがよいと考える。
  - ・周辺には大きな建物はあるが、水際の線から引いて建っているため、どうしてもこの樋門は飛び出た感じに見えるため余計に目立ってしまう。ゲートを分割するなどして、巻き上げるものを少なくすれば、巻き上げる設備が短くなるのではないかと。
  - ・安全性・確実性・信頼性に欠けるものだとまずいため、選択肢としては、引き上げ式ゲートしかないのではないかと。
  - ・景観上全く見えないのが好ましいが、用地の制約条件もあり、引き上げ式でやむを得ないのではないかと。
  - ・比較検討項目の中に「景観」・「コスト」・「機能」・「維持管理」とあるが、もう少し説明が必要。ただ、まず考えなければいけない順番としては機能だと思われる。樋門の機能を十分に満足した上で、プラスαとして何か創意工夫をすれば良いと考える。
  - ・観光の一つの目玉と考えるとマイターゲートが良いと思うが、治水事業だということは忘れてはならない。基本的に、目立たせないという点では委員の意見は一致していると考えられる。
  - ・「松江市の水際を美しくする」、「本当に松江らしいものをつくる」ということをやらなければいけないと考えている。よって、引き上げ式の構造に対してはあくまで反対である。

今回の会議では樋門に関する審議は次回に持ち越しとなった。

次回の会議では、以下の項目について再度審議を行うこととなった。

①樋門形式を固めるための機能的な部分の説明

②樋門全体や各部位のデザインに関する審議

以上